

十勝で確認されたアカンハマベエンマムシ  
(鞘翅目：エンマムシ科)

田中愛梨<sup>1)</sup>

New distribution records of *Hypocaccus akanensis* M.Ôhara, 1994  
(Coreoptera: Histeridae) in Tokachi, Hokkaido, Japan

Airi TANAKA<sup>1)</sup>

**Abstract**

*Hypocaccus akanensis* M.Ôhara, 1994 (Coreoptera: Histeridae), inhabit sandy area of riverbank in Hokkaido, has been recorded few distribution records. I report new distribution records of *H. akanensis* from Oribe River and Otofuke River in Tokachi, Hokkaido.

はじめに

アカンハマベエンマムシ *Hypocaccus akanensis* (鞘翅目：エンマムシ科) は北海道でのみ確認されている希少種で、河川砂地に生息する (Kikuchi and Ôhara 2023). 本種は 1918 年に阿寒岳 (釧路地方, 正確な地名は不明) で採集された標本をもとに記載された (Ôhara 1994), 日本昆虫目録第 6 巻第 1 部 (日本昆虫目録編集委員会 2022) ではヒメハマベエンマムシ *Hypocacculus asticus* (鞘翅目：エンマムシ科, *Hypocaccus* として掲載) のシノニムとして扱われた。しかしその後、平取町と新ひだか町 (日高地方) で新たに確認され、それらの標本をもとに再記載された (Kikuchi and Ôhara 2023). この他には和琴半島や岐阜県から報告されていたが (道東昆虫研究所 2019; 豊島 2021), これらは誤同定であることが確認されており (Kikuchi and Ôhara 2023; 中谷 2024), 本種の確実な記録は原記載論文 (Ôhara 1994) と再記載論文 (Kikuchi and Ôhara 2023) のみと極めて少なく、十勝は分布の空白地帯となっている。

今回、アカンハマベエンマムシを十勝で採集したので、本種の記録がわずかであることから報告する。

採集地

採集地は居辺川および音更川の河原の砂地で、晴

れた日に砂の上で静止や歩行をしている個体を採集した。これは Kikuchi and Ôhara (2023) における採集地の環境と類似する。北海道における河川砂地に生息するハマベエンマムシ属は、本種の他にはアラメハマベエンマムシ *H. axeli* とヤマハマベエンマムシ *H. subaenus* が確認されており (Kikuchi and Ôhara 2023; Ôhara 1994), Kikuchi and Ôhara (2023) では混生することが確認されているが、どちらの採集地でも採集個体以外に本種や同属他種は発見できなかった。

その他、音更川ではツメアカマルチビゴミムシダマシ *Caedius jluviatilis* (鞘翅目：ゴミムシダマシ科) が本種と同時に採集された。居辺川では、同日同所ではないがツメアカマルチビゴミムシダマシやヒメスナゴミムシダマシ *Gonocephalum persimile* (鞘翅目：ゴミムシダマシ科) などが周辺で見られた。これらは河川砂地に生息する種である (秋田・益本 2016)。

同定

採集個体は前胸背板は荒く点刻され、中胸—後胸縫合線が波線となること、尾節は弱いしわ状を呈する点刻に全面を覆われること (Kikuchi and Ôhara 2023; Ôhara 1994; 大原 1998) などからアカンハマベエンマムシ *H. akanensis* と同定した (Fig. 1A, B).

アカンハマベエンマムシが十勝にも生息すること

1) ひがし大雪自然館 〒080-1403 北海道河東郡上士幌町字ぬかびら源泉郷 48-2  
Higashitaisetsu Nature Center. 48-2 Nukabira-gensenkyo, Kamishihoro-cho, Kato-gun, Hokkaido 080-1403, Japan.

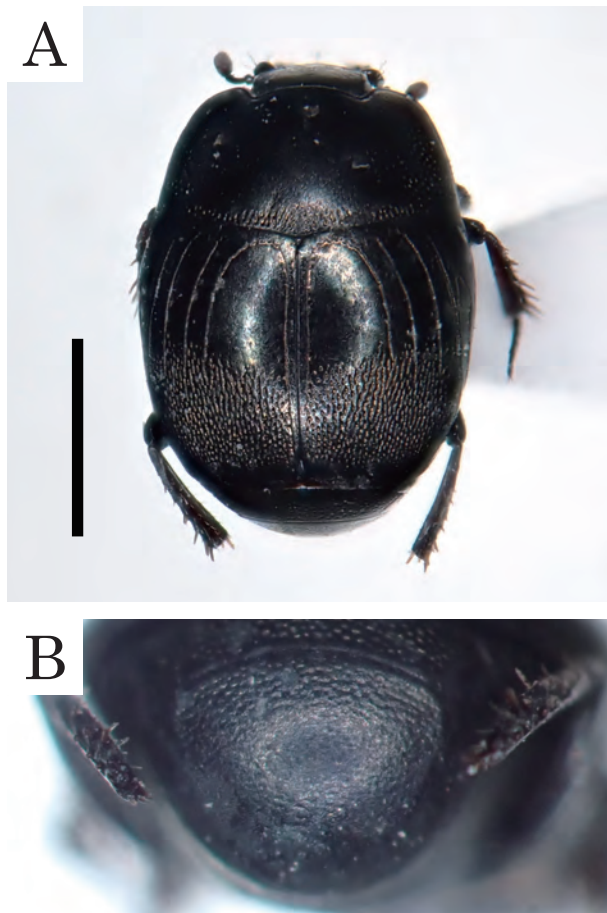


Fig.1 *H. akanensis* from Oribe River [HTMNH-48749].  
A: Dorsal view (scale bar: 1.0 mm), B: Pygidium.

が明らかとなった。なお、釧路の記録は 1918 年と古く (Ôhara 1994), 現在の生息状況は不明であるため、調査が必要である。

本種を含むハマベエンマムシ属は砂地の重要な環境指標種となる可能性があり (Kikuchi and Ôhara 2023), 生息地や状況を把握することは重要であると考え。採集地の音更川と居辺川はそれぞれ十勝川、利別川の支流である。これら本流では本種は発見されておらず、またその他の河川にも産する可能性がある

ため、今後調査を継続して行いたい。

#### 標本情報

*Hypocaccus akanensis* M.Ôhara, 1994 アカンハマベエンマムシ (Fig. 1A, B)

**Specimens examined:** Hokkaido, Kamishihoro-cho, Higashioribe, Oribe River, riverbank, on sand, 2 ex, 30 May, 2022, A.Tanaka. [HTMNH-48748, 48749]; Shihoro-cho, Shihoro, Otofuke River, riverbank, on sand, 3 ex, 28 April, 2023, A.Tanaka [HTMNH-48750, 48751, 48752]. All specimens are kept in Higashitaietu Museum of Natural History.

#### 謝辞

本報告をまとめるにあたり、便宜を図っていただいた北海道大学総合博物館の大原昌宏教授、同定の確認と他種との識別点についてご教示いただき、文献をご恵与いただいた北海道大学大学院農学院昆虫体系学研究室の菊地那樹氏に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 秋田勝己・益本仁雄, 2016. 日本産ゴミムシダマシ大図鑑. むし社.
- 道東昆虫研究所, 2019. 道東の昆虫と自然 別冊 弟子屈町 屈斜路湖畔 和琴半島の昆虫. 道東昆虫研究所.
- Kikuchi, T. and Ôhara, M., 2023. Taxonomic notes on the riverine histerid beetles of the genus *Hypocaccus* THOMSON, 1867 (Coleoptera, Histeridae, Saprininae) in Japan, with description of a new species. *Elytra, N. S.*, **13**: 203–238.
- 中谷正彦, 2024. 「和琴半島の昆虫」の訂正 (その 2). 道東の昆虫と自然, **10**: 85–86.
- 日本昆虫目録編集委員会 (編), 2022. 日本昆虫目録 第 6 巻 鞘翅目 (第 1 部). 権歌書房.
- Ôhara, M., 1994. A revision of the superfamily Histeroidea of Japan (Coleoptera). *Ins. Mats. N. S.*, **51**: 1–283.
- 大原昌宏, 1998. 日本産エンマムシ上科概説 VIII—ドウガネエンマムシ亜科—. 甲虫ニュース, **121**: 1–6.
- 豊島健太郎, 2021. 岐阜県におけるエンマムシ科甲虫数種の記録. 啓蟄, **39**: 49–51.